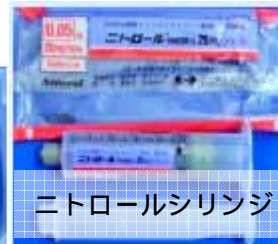
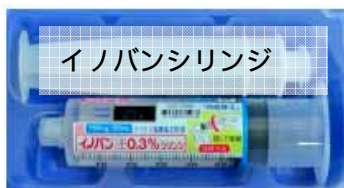


## 薬剤部 DI ニュース

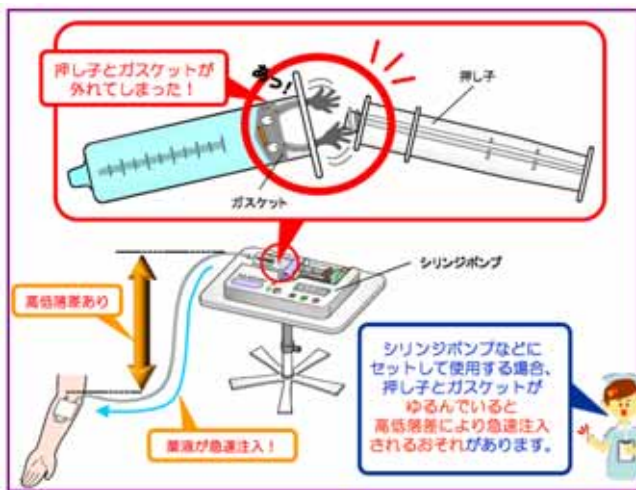
## 医療安全管理について（シリーズ7）

## ～ プレフィンドルシリンジ製剤の安全使用について ～

プレフィンドルシリンジ製剤は既に薬液がシリンジ内に充填されており、例えばシリンジポンプで投与する際に、アンプルやバイアルをシリンジに充填する手間がいらぬ製剤です。しかしながらガスケットと押し子を適切に組み立てる必要があります。組み立て自体は簡単ですが、簡単だからこそ逆に確認不足によるエラーも起こります。今回、日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書および薬事法に基づく副作用・不具合報告において医薬品医療機器総合機構に収集された事例の一部を例に注意点についてご報告いたします。



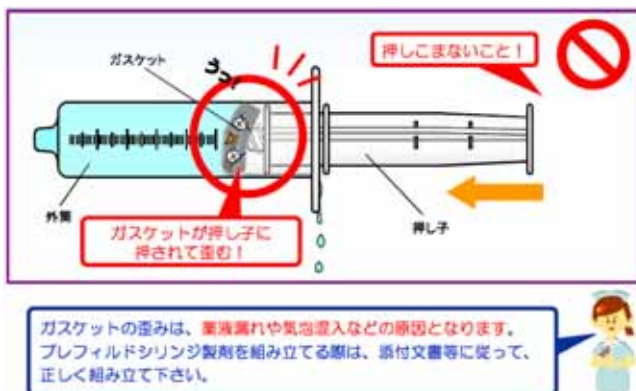
事例1 シリンジポンプでドパミンを投与中にプレフィルドシリンジの押し子がガスケットから外れ、患者に急速注入されてしまった。



## ポイント

プレフィルドシリンジ製剤の押し子とガスケットは、ねじ込み式による接続のため、シリンジポンプへの取り付けなど、**取扱い時に接続がゆるむ**ことがあるので注意が必要です。

事例2 プレフィルドシリンジのガスケットが歪んでいたため、外筒とガスケットの隙間から薬液が漏れていた。



## ポイント

プレフィルドシリンジを組み立てる際は、押し子を**回転させながら**ねじ込む必要があります。



## ポイント

他のシリンジポンプに接続しない組み立て済みのプレフィンドルシリンジ（例：ヘパフラッシュ、アスパラギン酸カリウム注10mEqキット）についても内筒とガスケットがゆるんでいる場合もありますので、使用前の確認は必要です。